

## 第34回函館市青少年芸術教育奨励事業 企画推進委員会

日時 令和6年4月18日(木) 午後4時30分

場所 函館市役所 5階 教育委員室

### 1 開 会

○遠峯主査

ただいまから、第34回函館市青少年芸術教育奨励事業企画推進委員会を開催いたします。

本日は、5名の委員のうち3名にご出席いただいておりますので、函館市青少年芸術教育奨励事業企画推進委員会規則第4条第3項に基づき、会議が成立しております。

はじめに、本年1月の函館市教育委員会傍聴人規則の改正に伴い、今回より傍聴人名簿を廃止し、傍聴人には傍聴章を着用していただくこととなりましたので、ご報告いたします。

### 2 企画推進委員及び 事務局員の紹介

○遠峯主査

はじめに、企画推進委員の皆様をご紹介します。

函館市小学校長会の 高橋 吉隆 様です。

函館市中学校長会の 對馬 寿恵 様です。

函館市文化団体協議会の 菊池 守晃 様です。

高等学校長協会道南支部の 花松 均様と、

函館市PTA連合会の 中島 登詩子様

につきましては、本日所用のため欠席となっております。

次に、事務局を紹介いたします。

生涯学習部長の 土生 明弘です。

生涯学習部次長の 宮田 至です。

生涯学習文化課長の 長濱 未亜です。

生涯学習文化課の 石橋 知香です。

そして、生涯学習文化課の私、遠峯 良太です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

### 3 主催者挨拶

○遠峯主査

主催者を代表いたしまして、生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

○土生部長

(挨拶)

皆様、こんにちは。生涯学習部長の土生でございます。

本日はお忙しい中、第34回函館市青少年芸術教育奨励事業の企画推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

この事業は、函館の次代を担う青少年の心豊かな文化芸術活動の一層の振興に役立ててほしいと篤志家である故加藤昇様・キヨ様ご夫妻からご寄付いただいた1億円で基金を設置し、平成3年度に創設した事業で、今年で34回目を迎えます。

昨年度は、文学、美術、書、音楽の4部門で、延べ795点の応募があり、多くの児童生徒に、個性豊かな作品や、質の高い演奏を発表していただきました。

運営に携わっていただいた関係者の皆様には、このたびのご協力に対しまして、心から感謝しております。

この事業を通して、一人でも多くの子供たちに、みずみずしい感性と創造性を伸ばしていただきたいと願っております。

本日は、この後、昨年度の事業の経過とともに、第34回の事業計画案について、ご説明申し上げ、ご審議いただきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

#### 4 委員長・副委員長の選任

○ 遠峯主査

次に次第の4、委員長・副委員長の選任についてですが、今回の企画推進委員会は、令和5年6月の改選後初めての会議となりますので、このたび選任いたします。

教育委員会規則では、委員長は企画推進委員会を代表し、会務を総理するとあり、副委員長については委員長を補佐する、とありますので規則にのっとり、互選による選出といたします。

どなたか推薦の案がございましたら、お願いいたします。

○ 菊池委員

事務局に一任します。

○ 遠峯主査

事務局一任との声がありましたので、事務局の推薦案といたしまして、委員長は、前期に引き続き、高橋委員にお願いしたいと思っております。また、副委員長につきましては、對馬委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

皆様にご了承いただきましたので、よろしくお願いいたします。

5 (1)第33回  
事業報告

○遠峯主査

次に次第の5, 議事に移りたいと思いますが, 進行を高橋委員長にお願いいたします。

○高橋委員長

それでは, 議事に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○長濱課長

はじめにお手元の資料に基づき, 令和5年度, 第33回の事業の報告をさせていただきます。

まず事業の経過についてです。

1 ページをお開きください。

4～5月 企画推進委員会, 事業推進委員会, 審査委員会を開催

6月 募集要項の送付, 応募促進PR

6～9月 音楽 書 文学 美術の応募受付, 審査

10月 児童生徒書・美術展の開催

2月 優秀作品集「若い芽」発行

を行ったところでは。

なお, 特別賞受賞者には, 賞状と副賞, 賞品を授与しております。賞品はギフトカードとしており, 各部門の活動に役立ててもらいたいと考え, 金賞3万円, 銀賞1万円, 銅賞5千円分としております。

次に2ページは, 昨年度の応募状況ですが, 応募者は「文学」が312名, 「美術」が263名, 「書」が189名, 「音楽」が31名で合計795名でした。

3～4ページは参考として第1回からの応募状況の推移を記載しております。

5ページは, 第1回からの金賞受賞者の一覧となっております。

議事(1)については以上でございます。

○高橋委員長

ご質問, ご意見等があればお願いいたします。

(質問等なし)

昨年度の事業報告はご了承いただいたものといたします。

(2)第34回  
事業概要説明

○高橋委員長

次に, 議事(2)第34回の事業計画案についてです。

事務局から説明をお願いします。

○長濱課長

それでは第34回の事業計画案についてご説明いたします。

6ページをお開きください。

4事業内容の芸術活動事業についてご説明しますと、文学部門は優れた作品を選定し「文学部門優秀作品集」にまとめ発表、美術と書部門は優れた作品を選定して「書・美術展」を開催。音楽部門はコンクールの開催となります。

なお、「書・美術展」の会場において、音楽コンクールの受賞者の演奏動画を上演いたします。

次に、7ページからの5表彰の最後に※印で記載しておりますが、特別賞受賞者には賞状と副賞および賞品を授与します。

賞品は昨年度同様、ギフトカードとし、各部門の活動に役立ててもらいたいと考え、金賞3万円、銀賞1万円、銅賞5千円としております。

6対象者以下9ページまでは記載のとおりでございますが、審査委員会の構成について、昨年度から変更がありますので、ご説明します。8ページの(2)構成③審査委員会をご覧ください。

昨年度までは各部門3名の計12名としておりましたが、今年度は、音楽部門のみ5名に増員し、全部門で計14名としたいと考えております。

音楽部門につきましては、近年応募者のレベルが高まっている中、ピアノ、独唱、器楽といった多様なジャンルの演奏を一度に聴いてその場で判断するという審査方法の性質や、音楽教室の生徒など利害関係者への配慮といった観点から、より適切な審査のためには増員が不可欠であるという審査委員からの意見に対応したものです。

次に10ページの募集要項(案)についても、文学作品では応募規定など記載のとおりで、以下12～13ページの美術、14～15ページの書、16～17ページの音楽となっております。

11ページの文学部門募集要項(案)の(5)注意事項をご覧ください。

昨年度の企画推進委員会において、人工知能(AI)により生成された文章や画像の応募があることを懸念するご意見があったことを踏まえ、昨年度より、文学部門と美術部門に、人工知能(AI)により生成された文章等を用いた作品の応募を不可とする規定を追加したところです。

なお、昨年度の審査委員会では、該当する作品はありませんでしたが、引き続きこの規定を盛り込んでおります。

続いて、13ページの8賞(上限)の最後の※印をご覧ください。

従来、受賞者の公表は全部門の審査終了後に一斉に行っております。

たが、昨年度から、より迅速な情報提供を行うため、審査が終了した部門から、随時ホームページに掲載することとしましたので、各分野の募集要項（案）に、このように記載しております。

次に18ページをお開きください。

事業日程ですが、昨年度とほぼ同じ時期での開催としております。

本日の企画推進委員会を経て、事業推進委員会、審査委員会を開催し、6月には募集開始、6～9月に各部門の応募受付および審査を行い、10月には児童生徒書・美術展の開催、2月には優秀作品集を発行することとしております。

以上でございます。

○高橋委員長

ただいま事業計画案について説明がありましたが、ご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

ご意見等がなければ、計画案はご承認いただいたものといたします。

### （3）その他

○高橋委員長

次に議事（3）その他についてです。

皆様から何か連絡事項などございますか。

○菊池委員

近年、児童生徒数の減少に伴い、応募人数も減少傾向にあるようですが、応募を促進するための工夫は何か考えているのでしょうか。

○長濱課長

作品等の募集については、学校を通じて周知していますが、今後は、電子データでも児童生徒に周知してもらおうなど、保護者に対し、もっと情報が届くような工夫ができればと考えております。

○高橋委員長

ほかに何かご質問等ございますか。

（なし）

事務局から何かございますか。

○長濱課長

ございません。

○高橋委員長

本日の議事はすべて終了いたしますが、昨年度の企画推進委員会で、賞取り合戦などではなく、文化に触れて心を豊かにしていくことが本事業の趣旨だという委員からのお話がありましたが、34回目を迎えたこの事業が、子どもたちの豊かな感性を育み、個性豊かな芸術活動の一層の振興に寄与していくことを期待しております。

事務局に進行をお返しいたします。

## 6 閉 会

○遠峯主査

以上をもちまして、企画推進委員会を終了いたします。  
本日はどうもありがとうございました。

---